

第7次高浜市総合計画審議会（第4回） 会議録

| | | | |
|-----|---|--|----|
| 日 時 | 令和3年10月27日（水）午後7時～8時30分 | | |
| 場 所 | かわら美術館 3階講義室・会議室 | 傍聴人数 | 1名 |
| 出席者 | 委 員 | 中川幾郎、水野輝久、宮田克弥、前川勉、杉浦秀敏、神谷章一、 酒井幸代、坂本直敏、中川健二、新美純子、畠孝二郎、横山英樹、 神谷坂敏 (13名出席) | |
| | 行 政 | 市長 吉岡初浩 (1名出席) | |
| | 事務局 | 企画部長 深谷直弘 総合政策グループ リーダー 榊原雅彦 同 主 査 田中 愛 同 主 査 京極昌彦 同 主 任 多武利康 同 主 任 祖父江佑介 同 主 事 村松邑馬 同 主 事 嶋本花凜 同 主 事 東端佑奈 (9名出席) | |
| 次 第 | 1 開会 2 議事 1) 高浜市の未来を描く市民会議の進捗状況について【報告】 2) 施策の分野構成(案)について【審議】 3) フォーマット(案)について【審議】 4) 基本目標フレーズ(案)について【検討】 3 その他 | | |
| 資 料 | 参考資料1：高浜市の未来を描く市民会議（第5回）報告 参考資料2：施策の分野構成(案)について 参考資料3：計画書フォーマット(案)について 参考資料4：基本目標フレーズ(案)について | | |

| | |
|---|--|
| 1. 開会（会長あいさつ） | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・本日はご多忙の中、お集まりくださいます、ありがとうございます。ただ今より第4回高浜市総合計画審議会を開会する。 ・本日、滋賀県甲賀市で市民参画協働推進検討委員会の会長を務めてきたが、そこで高浜市の話題が出た。住民投票の投票を常設化するかという議題で話題が出たわけだが、注目されている町だということであらためて感じた。 ・また、甲賀市は高浜市に対して子どもを大事にしているというイメージも持っている。自治基本条例で、子どもがまちづくりに参加する権利があるということを独立条項で起こしている具体的な事例を知りたいということで、高浜市の名前が挙がった。全国の自治体で高浜市はお手本となっている。 | |

| | |
|--------------------------------------|---|
| 2. 議題 | |
| 1) 高浜市の未来を描く市民会議の進捗状況について【報告】 | |
| 会長 | ・それでは、議題1「高浜市の未来を描く市民会議の進捗状況について」について、事務局より説明をお願いしたい。 |
| 事務局 | (参考資料1「高浜市の未来を描く市民会議(第5回)報告」に基づき説明。) |
| 会長 | ・この議題は報告となるので、次の議題に移る。 |

| | |
|------------------------------|--|
| 2) 施策の分野構成(案)について【審議】 | |
| 会長 | ・続きまして、議題2「施策の分野構成(案)について」について、事務局より説明をお願いしたい。 |
| 事務局 | (参考資料2「施策の分野構成(案)について基づき」説明。) |
| 会長 | ・これについて意見があればご発言をお願いしたい。 |
| 委員 | ・4つの大きな分野については分かったが、最終的にどのような形で外に出ていくのか。 |
| 事務局 | ・10年後のPDCAサイクル、進行管理については市民のみなさんが考えるものとは別に、行政としては別途お示しする予定である。こちらについては、後々審議していただきたい。 |
| 委員 | ・第6次と第7次でどのように変わっていくのかがよくわからない。分野分けが、前回と違い、ゆるい括りになっていると見える。計画が出来上がったら、それぞれの組織が仕事をするうえでかかわってくると思うが、重複した部分の仕事をそれぞれの組織ができるようにしていくのか。そこが変更点か。 |
| 事務局 | ・今の部の構成としてはずれるところはある。ただ、前回の審議会でも話題に挙がったように、これからは連携していくということが肝になってくる。これまで行政は縦割りで、連携できない部分もあったが、今後はグループ間を超えた連携が重要だと考えているので、推進体制については今後しっかりと表現できるようにする。 |
| 委員 | ・場合によっては組織を変えることはあるのか。 |

| | |
|-----|---|
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ・1つのキーワードに対して、担当するグループ以外は何もしないのかといえ ばそうではない。項目によってきちんと連携していく。今までは、分野は分 けるけども目標に向かってきちんとやっていくというところがなおざりに なっていた。行政は縦割りというが、実は密接に絡んでいるという意識をし っかりともっていく。 ・必要があれば組織を変えるかもしれない。 |
| 会長 | <ul style="list-style-type: none"> ・計画が一旦できたら実現するまで注力しなければならないが、組織はわりと 柔軟に変更できる。場合によっては1年単位で変更できる。安定性を欠くこ とになるが。 ・官僚機構の宿命として事務分掌条例で決めないと動きがとれないが、協働し て横のつながりをもっていかないといけない。横につないで話に応じるよう にというルールが1つ、計画に加わっている。それが協働。 |
| 会長 | <ul style="list-style-type: none"> ・それでは、この通りに進めていくこととする。 |

| | |
|-------------------------------|--|
| 3) フォーマット (案) について【審議】 | |
| 会長 | <ul style="list-style-type: none"> ・それでは続きまして「フォーマット(案)について」事務局より説明をお願い したい。 |
| 事務局 | (資料3「計画書フォーマット(案)について」に基づき説明。) |
| 会長 | <ul style="list-style-type: none"> ・これについて意見があればご発言をお願いしたい。 |
| 会長 | <ul style="list-style-type: none"> ・高浜の総合計画は住民が「役所の計画」と思い込むのを防ぐために住民自治 側の責任も記載するというルールがあり、それがこの案1に書いてある「ひ とりひとりにできること」「みんなのできること」ということだと思う。案 1・2で住民自治を「ひとりひとり」と「みんな」と分けたのは分かるが、 案3・4には、「行政の役割」も記載されている。案1・2では行政の役割 がどこに反映されているのか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ・案3・4については、行政の役割として「ひとりひとりができること」「み んなができること」を実現していくためにこれから何をするかを反映される ようにしているが、案2についてはそこが「市が取り組むこと」に包括され るフォーマットとなっている。市民の人たちができることを担保するために 行政の役割が必要だということであれば、それを組み込んでいきたいと思っ ているが、現状案2についてはそこまで表現はできていない。 ・案1についても同様。案1は行政としてはこういった方向性で10年進んで いくという方向性はあるが、具体的にこんなことに取り組んでいきますとい うものがなく、市民からみて「行政は我々に何をしてくれるのか」という部 分が若干分かりづらくなってしまうのが弱点だと感じている。どうしても行 政からの目線が強くなってしまいうため、「市民目線だとこのように見える」 ということを、本日ざっくばらんに意見をいただければ、より市民から見て も見やすいものができると思っている。 |
| 会長 | <ul style="list-style-type: none"> ・それでは、順番にどの案を支持するか意見をお願いしたい。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ぱっと見た印象では案2が見やすいと思った。 |

| | |
|-----|---|
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・同じく、案2が良いと思う。もともと行政で働いていたのもあり、どうしても総合計画は行政が作るものというイメージがあったので、案2が一番市民の人たちもかわりがあることが表現できているかと思う。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・案2が良いと思う。フォーマットについて、住民自治を進めていくということを念頭に置くのであれば、「ひとりひとりができること」「みんなができること」を左に持っていく、市が取り組むことや住民自治をつくるために市がどのように取り組んでいくかを示しても良いのではないか。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・案1と2の折衷が良いと思う。市民の目線でいうと案1のように、字ばかりよりもグラフやデータ等を見せてもらえれば何が必要なのかが分かり、施策の方向性という難しい言葉よりも、市が取り組むこととしてページに記載した方が良い。逆に事業がどうかそういったことは市民にとっては関係ないので、そのあたりが上手く合わさると良い。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・まずこれをA3サイズで見るかA4サイズで見るかで違ってくると思う。できあがったものが冊子という形で出てきた場合、A4でページ立てを設定されたときに、見開きの左から見てA3サイズだとどうしてもZという視点で見えてしまう。しかし、A4サイズということだと縦で見ていく。フォーマットの話となってしまうが、例えばSDGsのマークなどが右端にあるか左上にあるかで考えると、左上にあった方が見やすいと思う。そうなったときに、案1・2はちょっと見にくいと感じた。 ・内容については、進捗や目標がわかる方がいいと思うので案4が良いと思うが、それ以前にまずはページ立てをA3で見るかA4で見るかということについてしっかりと意見交換した方がいいかと思う。 |
| 会長 | <ul style="list-style-type: none"> ・A3サイズにはならないか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ・A4サイズの見開きとなる。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・A4サイズを支持する。ただ案4では5年後に目指すまちの姿となっており、全体でいうと10年後を見るということから、もう1回計画直すぞと宣言しているように私は理解した。 ・膨大な量を上手くまとめられるのかという分量の問題もある。 ・到達点はこのような形だと示すことは非常に重要。まちづくり指標はあくまで現状値と目標値なので、ある事案についていつまでにやるぞという意欲がないといつまでも目標値ばかり見えてしまう。これはあった方が分かりやすいのかなと感じた。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・案1がいいなと思う。A4で見る限りでは案1が一番見やすいかなと。案1について、現状と課題がしっかりとここで出されればよい。 |
| 会長 | <ul style="list-style-type: none"> ・こういったことを多数決で決めるのはあまりよくない。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・案4が良いと思う。ただ現状と課題の部分がちょっと狭すぎる。「目指す姿の実現に向けての考え方」、これはいいと思うが、この5年間で事細かにやる必要が本当にあるのだろうか。もう少し簡易にまとめても良いのではないか。それと同時に、「ひとりひとりにできること」の部分はもう少し広くてもいいのではないかと思う。 ・現状値と目標値について、目標値は5年後の数字なので、この部分を比較す |

| | |
|----|--|
| | <p>るのはなかなか難しいのではないかと。極端にいうと市の財政などいろいろなことが変わっている、もっというと産業構造も変わってるかもしれない。それから住んでる人たちの構成も5年間10年間のなかで極端に変わるかもしれない。この数字をどう出すのかは分からないが、大変ではないだろうか。</p> |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> 案4かと思うが、一番欲しかったのは、ひとりひとりと、みんながやることと、市がやることの役割分担が見えてほしいということ。また、「ひとりひとりにできること」をどうやって決めていくのか。どのような方法をとるのかは分からないが、何かを経て「5年後がんばります」というものがこのなかに表れるといいと思う。ただ、ちょっと記載するスペースが狭い。 やはり「現状と課題」はほしいが、「今まで積み上げたもの」と「上手くいったものいかなかったもの」「これから変えていかなきゃいけないもの」、この3つを表現しようとするこのスペースでは狭そう。フォーマットの範囲に無理やり入れるというよりは、効率よく記入し内容を伝える工夫をお願いしたい。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> 案4で、左下の三角のやじるしは年ごとの大体の進行状況をあらかじめ決めておきましょうということだと思うが、やはりこういうものがある程度は必要になる。1年ごとにある程度反省をし、その積み重ねが5年後にくるはずなので、1年ごとの進捗状況が変わってくるのであれば何か進め方を特別変えなければいけないと思う。年度ごとの進捗状況というものは入れておく必要があると思う。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> 案2がいいと思っていたが、その理由としては字が大きくて見やすいから。高齢の人が小さな字なんか見れない。そうすると字数が絞られてしまう。みなさんの意見を聞くと案3か4かなど。5年の目安を作るなら案4だし、10年のスパンで見るなら案3。どちらかを加味してやるのがいいのかということ。 以前資料としていただいたアンケートを見ていると、良い方でも悪い方でも同じような内容が出てくる。例えば高浜に住みたい理由というところで「交通の便がいい」と回答している人がいる一方、逆に高浜に住みたくない理由が「交通の便が悪い」と回答している人もいる。これをどう扱っていいのか。それぞれ考え方がるので、「現状と課題」というところはなかなか難しい。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> 色々聞いとると、やはり見せ方は案3か4、進捗を見ていくとなると案4かなと思う。こんなことに取り組むということは今の第6次総合計画に記載をしているが、内容をぼかすと何をやりたいのかと言われ、具体的に書き出すと年々その事業が進化していけばいいが、ほとんど5年間変わらない、10年間同じことをやりましたという事業が第6次総合計画にも見受けられるので、そこはどうか打破したいなと思っている。 |
| 会長 | <ul style="list-style-type: none"> 先ほども少し言ったが、多数決で決めるのは少し難しいところがある。今出した意見について「そうだな」とすることも事務局としてはあるだろう。それを全部活かして新たな作表をしていただきたい。それと、作表されててもこの面積の中に無理やり入れるという話ではないと思う。文字もやや多いところ少ないところ凸凹が出てくるのは仕方がないことで、こういったフォーマットに書いてあることは、この項目についてちゃんと書きなさいという意味 |

| | |
|--|--|
| | <p>であって、これだけの行数書きなさいという意味ではないので、これは弾力性が発揮できると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 委員の意見で出たことを追体験して申し上げるが、グラフとかデータは非常に有力なので、これは印象的な武器でもあるから上手く使ってほしい。それから、視覚的なキャッチな部分は、レイアウトの専門家の意見を聞くのが必須なので、委員に直接お聞きになってアドバイスをもらってください。 「現状と課題」については、全部ここに書かれているので構わないが、「現状と課題」の書き方というのは非常に皆さん関心が高かったのもので、これは担当部局の腕の見せ所だと私は思う。別の自治体の話だが、昔私が総合計画を担当したときに、「現状と課題」について立派なことが書いてはあるが、それを受けてやる仕事は国の決めた通りとあり、何も課題に対応していないということがあった。高浜の場合はそのようにはならないものと安心している。 一番たくさんの委員がこれはいいと直感的におっしゃったのは案4。その次に支持が集まったのは案2。案1・3を支持されたのは条件付きで2人。案4が非常に印象として良かったのではないだろうか。 その他気づいたことがあれば、コメント用紙に記入のうえ事務局に提出を。 |
|--|--|

| | |
|-------------------------------|--|
| 4) 基本目標フレーズ（案）について【検討】 | |
| 会長 | <ul style="list-style-type: none"> それでは続きまして「基本目標フレーズ（案）について」に入らせていただきます。これについても多数決で決めるのは難しいと思うので、皆様のご意見をいただきながら、もう一度触れていくという機会にしたい。それでは事務局より説明をお願いしたい。 |
| 事務局 | (参考資料4「基本目標フレーズ(案)について」に基づき説明。) |
| 会長 | <ul style="list-style-type: none"> 「人と想いが つなぐつながる しあわせなまち 大家族たかはま」これについては確定させている。その下にある4つの柱ごとのキャッチコピーを決めたいということ。各ページ最後の事務局案というのが行政側の提案原案なんだというふうにご理解いただきたい。また、大家族たかはまの趣旨を活かして「みんなで」という言葉が必ず共通で入っているという説明もあった。これにつきまして、ご意見をお願いしたい。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> 「ともに育む」のところのフレーズ案、「高浜の今をアシタに」がカタカナになっているところはなぜか。 |
| 会長 | <ul style="list-style-type: none"> 「アシタ」というのは高浜で「アシタのたかはま研究所」というものを作った経過があるからか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> 今までも「アシタ」という単語を漢字ではなくカタカナで表記しており、ちょっとぼやかして本当の明日ではなくもうちょっと先の未来みたいなどころまで表現したいというかたちで書いているが、逆にそれが意味がよく分からないとなるのであれば今後変えてもいいとは思う。 |
| 会長 | <ul style="list-style-type: none"> 普通の明日に変えてもいいと思う。 |
| 杉浦秀敏委員 | <ul style="list-style-type: none"> ちょっと引っかけたのが、「高浜の今を」という表現が適切なのかなと。もう少しなにか言い回しがあるのかなと。 |
| 会長 | <ul style="list-style-type: none"> 「高浜の明日をつくりだそう」とか「明日をつくろう」でいいと思う。こう |

| | |
|-----|---|
| | <p>いうキャッチコピーというものは難しい。</p> |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> 最初の「ともに歩む」のキャッチフレーズが「みんなでしあわせになれるまちを創ろう」というもので、最後の「ともに安心して」キャッチフレーズが「しあわせに暮らそう」と、「しあわせ」という言葉が4つしかないフレーズの中に2回出てくる。フレーズが出てくること自体は別に悪いことではないが。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> 行政のチームがすごく真剣に考えてくれたんだと思う。なのでこのフレーズ案で出てくるものは、どんなものがきても基本目標の内容を含んだものになると思うので、あとは好みになるのではないかな。 出てきたものでいいかなと思うが、公式の場に出ないのであれば、例えば五七五などで子どもたちに募集をかけて、なんとなく思いだけ書いて募集してもいいのかなと思う。小学校の子たちが10年ぐらい前に考えた標語が看板でまだ残ってたりするが、結構頭に入っていたりする。ちゃんとしたところに出ないのであればそういうのもと思った。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> 「ともに歩む」のところだが、ここは本当に元々が「共同」とか「共生」のという部分なので、「しあわせ」というよりも「共同」の「つなぐ」とか「つながり」といったフレーズに近いのかなという気がする。 |
| 会長 | <ul style="list-style-type: none"> 「共同」を意味するひらがなの言葉、例えば「みんなでつながれる」とか、そういったところか。「しあわせ」が2つあるよりそちらの方がいいかもしれない。「参画」と「共同」を意味するひらがなの言葉をそこに当てはめた方がいいのかもしれない。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> これはどういうときに使うのか。色々計画を積み上げていくときに、そこを目指して使うフレーズになるのか。4つにせっかく分けてある「ともに歩む」「ともに育む」「ともに発展し続ける」「ともに安心して暮らす」からさらに広がっているようで少し違和感がある。この区分けの言葉とフレーズとは別ということでしょうか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> おっしゃる通り。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> わかりました。どのように使うのかによって位置づけが変わってくる。 市民会議でみなさんに議論してもらう際に、ここはこのフレーズというような使い方をするのか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> その使い方をするのがキャッチフレーズ。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> 「ともに育む」の「アシタにつなげよう」、その上で「バトンをつなごう」っていったらここも「アシタにつなごう」でいいのではないかな。それから「創ろう」とか「暮らそう」、ここは「つなげよう」になってるから「つなごう」でいいんじゃないかなと思うのだが。 |
| 会長 | <ul style="list-style-type: none"> 一度事務局で持ち帰るように。 一旦ここで置かせていただく。コメント用紙にキャッチコピーについて記載できるようになっている。分野構成案や基本目標フレーズについても意見はまだ出せる。それからフォーマットについても先ほど4番を中心として加工改良することは一応確認した。それぞれご意見を書いて、事務局に渡してい |

| | |
|-----|--|
| | ただきたい。 |
| 事務局 | ・ 11月10日を目途に提出をお願いしたい。 |
| 会長 | <ul style="list-style-type: none"> ・ こういうことは決まりさえすれば行政内部で作業してもらえと思う。キャッチコピーの話もあったが、この仕事は総合計画の第何番目の何に基づく仕事なのかというクレジットを追加してほしい。そのときに総合計画のこのキャッチコピーをどこかに挿入するか。役所の各部局が勝手にキャッチコピーを作っているところ多い。計画秩序というものを重んじて欲しい。ここのキャッチコピーというのは、そんなに軽いものではないということを庁内に伝えてほしい。 ・ 今日先ほど甲賀市の話をしたが、高浜市の話題以外にもう1つ話題として出たことは、どのような事業・施策を自治基本条例の第何条第何項に基づく事業だというクレジットを入れるということ。国の事業の場合は国の何々項に基づく事業ですって言えるが、自治基本条例の場合は、自治基本条例とかいわゆる自治基本が担保する条例第何条だと言える癖をつけつように。 ・ 事務局からの連絡事項後、皆さんより一言コメントいただきます。 |

| | |
|---------------|--|
| 3. その他 | |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 次回の審議会の日程は1月を予定している。またあらためて事務局より通知をさせていただくのでご予約をお願いしたい。 ・ 本日の議事録については、まとまり次第、委員のみなさまへお送りして確認いただき、書面で了解を得たうえで公開させていただくのでご了承願う。 ・ コメントシートを用意しているので、意見を伝えていただければ11月10日を目途に提出をお願いしたい。 |
| 会長 | ・ 審議は終了したが、時間も余っていることなのでお一人ずつコメントをお願いしたい。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ フレーズのところで、「安心すれば笑顔がこぼれる」「しあわせなら笑顔がこぼれる」というように笑顔という言葉がどこかに入っているのいいのかなと思った。 ・ 新しいところでは「次世代育成」と「多文化共生」「DX推進」という言葉が出てきたが、若者の支援というのか、収まる場所がない若い子たちの居場所というか、これは次世代育成とは似てて話がちょっと違うんだなと思ったが、やっぱり「若者の健全育成」というところは絶対外してほしい。 ・ 今後10年なら特に、今コロナで子どもたちは辛い思いをしていると思うので、そういう意味ではそこも少し力を入れてほしいところだと思った。 |
| 委員 | ・ 前回の市民会議で「学校教育」のことについて話し足りなかった方がいたが、別の分野の話し合いで言いたかった事を話すことができたそうだ。行政の縦割りはよく言われるが、今は「学校教育」であっても「防災防犯」や「福祉」につながっていることはあり、そういった考え方を行政の方が持つのが大事だということも思った。 |

| | |
|----|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> 自分たちの分野だけが良ければいいというのは極力外れるような総合計画が作ればいいと思う。それは市民の方もおそらく一緒に、たとえば「防災」に興味はあるけど他に興味はないというのは少しもったいないなと思っていて、実は「子育て」の方に行くと「防災」の話がすごいできるってということもあると思うので、そのようなあまり縦割りにならないような総合計画ができればいいかなと思っている。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> 今回新たに「次世代育成」が文言として入ってきた。私も老人クラブにかかわっていると、「次のなりてがない」「役がまわってくるからちょっと遠慮する」ということを言われるが、ただ会長さんたちは本当に前向きに取り組んでおり、みんなで役をこなしていく、みんなが喜んでくれる顔を見る、そうするとなにかやったかいがあったなとか役に立てたなということをやりがいを持って活動されているなということを感じている。 ただ、町内会にしろ、まち協にしろ、色んなところで次の世代が引き継いでいってくれるということが大きな問題で、本当に切実な問題だと感じている。こういったことを前面に出して考える場を作っていく、あるいはもっとみんなで話し合っていく、雰囲気をつくっていくということはとても大事なことです。なかなかすぐに解決策は見つからないかなとは思いますが、視点をあてていくことは大事。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> 第7次総合計画で多文化共生を大きく取り上げてもらえたことは嬉しいが、5年というところでは非常に色んなことが起きうることが想像がついており、コロナの影響で今後どんどん変化が出てくるなと思い、ちょっとそのあたりが計画通りにいかないことが予測できる。そこをどうやっていくのか。 多文化共生は縦割りでは絶対にできない、全て生まれた時から死ぬまでずっと関係するところなので、どの分野にもかかわるのでそういったところをまた皆さんと一緒に取り組めたらいいなと思っている。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> 仕事の関係でこの前、下呂市内企業の経営指導にオンライン会議に出席した。下呂市は観光のまちだが、現状どうなのという人口はどんどん減っている。家を建てる未来の子どもたちが、下呂の青年会議所の調査で中学・高校生にふるさとに戻りたいかというアンケートをとったら53%の子どもたちが戻りたくないという結果が出たそうだ。それを聞いたときに未来の子どもたちが地元に戻ってこないのは本当に悲しい現実ということを私自身に置き換えたときに、ある意味高浜市ってすごい幸せなんだなと感じる機会となった。高浜市にいる中高生が果たして、何%の子どもたちがそういうふうにいるのかというのを、逆に数値として知りたいなと感じた。 高浜市の人口は増えており、人はたくさんいる、つまり一番の資源である人という人材がいるなかで、大家族たかほまというキーワードをしっかりと作り上げていって関係性をもってつなぐつなげていくことってというのはまちの発展につながっていくのではと感じた。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> 一つのものに対しては色んな角度からアプローチしないと物事は解決しないし、理解もされないだろうと思う。総合計画はどうしても縦割りに近い部分で作っていかないと職員が恐らく書ききれないと思う。そうすると総合政策 |

| | |
|----|---|
| | <p>グループの仕事になってくると思うが、代筆したりいろいろな思いを汲み取って誰でもそこに入れていけるような計画やキャッチフレーズ、仕組みにしていきたいなと思う。</p> |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・今回の第7次総合計画では新規項目として「DX推進」と「多文化共生」の問題が出てくるので非常に期待しているが、デジタル化を推進したときに、スマホはメールくらいであと全然使えないという人がかなりいるんじゃないかなど。そういう地域の人たちとどうやってこれからコミュニケーションとっていけばいいのかなという気がする。 ・多文化共生についても、今回センターができたりして色々やっていくわけだが、どのように取っ掛かっていけばいいのか。5年後を見据えて地域計画今作っているが、その辺りがすごく悩ましいところで、何とか入れていきたいなと思っている。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・やはり「DX」と「多文化共生」というのは避けて通れる話じゃなくて、「DX」は基本的に私達の年齢から上の人たちが今後その部分から取り残されると思っているので、南部まち協で年寄りに対する「DX」の教育をやりたい。それから多文化に関しても、南部まち協でとある施設を借りてそこに色々な人たちが色々な時間帯に来れるようなものを今色々と考えているといった状況。 ・色々な案がここで出てくると思う。それはそれで実は非常に素晴らしいが、本当にそれがやれるのか、財政的なバックアップはどうなっているのかということを知りたい。今後の税収はどうなっていくのか、支出はどうなっていくのかというのを考えていくと、今のような健全な状況が続くとは残念ながら思えない。だからその辺をどういうふうにするのかということを知りたい。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・最初の基本計画が地域とリンクして色んな計画を立てていくうえでの基本になっていくので、第7次総合計画には大変期待している。地域の計画の中間報告でアンケートを取ると、母親は母親で悩みがある。なんとか行政にお願いして力を貸してもらいたい部分はあるので、共通的な部分は進めていただきたい。 ・コミュニケーションがとれるステップが欲しい。今までは作ったら作ったなりに計画だけで終わったことを、今回は何とかして、その行動が変わるようにしていかなければと思う。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・第7次総合計画は共に発展し続けるということが入っているが、1つ財政基盤をしっかりとしない限りはなかなか発展するのは難しい。じゃあ財政基盤をしっかりとするにはどうしたらいいかということ、1つは農地や工業用地など大企業を誘致するなりして、税収を増やすのが1つの手段だと思う。 ・ただそれは1年2年ではできない。だから5年10年の先を見込んでこの農地をどのように活用してどのような財政収入があるかというのを、真剣に考えてもらいたい。今の状態だと農地はそのまま保全しましょうという形で現状のままで推移するような感じで今動いているので、それも何とか将来を見据えた形の計画を作ってほしいと思っている。 |

| | |
|----|--|
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 83.4%の方が高浜市に定住していきたいという意向がある ・ ある人は交通が便利だと言う、ある人は交通が不便だと言う。交通が不便という地方の人からしたら、「高浜ってすごくいいところだよ」という感想になる。先ほど誰か言われたが、高浜市は恵まれたところ。南海地震という大きな心配はあるが、台風にしる何にしる、割と避けて通ってく。そういう意味でいうと皆さんそのような幸せはあまり関知していないのかもしれない。当たり前だと思っているのはいけないのかなと思う。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「DX」について、これは進めていく必要があると思っている。現在、本人確認と手数料がいる場合の電子マネーの部分クリアできれば役所へ来なくても証明書等が発行できる、そのような形に近い計画を順次進めていこうと考えている。 ・ 日本全体が人口減少社会のなかで、高浜が総合計画を作るのに人口増を考えない計画になると非常に寂しい計画になる。人口がまだまだ伸びる可能性は非常に高いと思っているので、先ほど指摘もあったように、人口増と企業誘致によって税収増をはかるということと、農地については多面的な機能もあるので優良な農地は保全するが、開発すべきところは今後もやっていきたい。 |
| 会長 | <ul style="list-style-type: none"> ・ これをもって、第4回高浜市総合計画審議会を終了する。 |